

シルバー会員が“調査員”となって奮闘!!



通りを見つめ、黙々と人の流れを計測する会員。「何してるの?」と話しかけられる場面も。

歩行者・自転車通行量調査

日南市の中心市街地活性化事業の一環

そのエリアの通行量は、どのくらい?そんな指数を得るための「歩行者・自転車通行量調査」が昨半夏、油津市街地一帯であり、大勢のシルバー会員が調査員となって人の流れを調べた。

人口動態や消費者ニーズなど商業

で二〜三人のグループに分かれ、朝9時から夜7時まで10時間にわたって調査した。人の流れは、場所や時間帯によってたえず変化するため、会員達はその実態を掴もうと真剣。分析指数は市街地の活性化事業や店舗出店時の立地条件データとしても活用されるため「社会的に意義深い仕事」と面々。中には自ら調査員を買って出る会員も。暑さの中、みんな真剣な表情で人の流れを観察、集計表に記入していた。



会長の光永さん



副会長の斯波さん

会員互助会の新会長に光永さん

日南市シルバー人材センター「会員互助会」の役員改選があり、新会長に光永一正さん、副会長に斯波正一朗さんが選ばれた。前会長高村正明さんらの退任に伴うもの。10月1日付。同会は、センター主催の行事や講座、ボランティア活動などを行い、会員の資質向上や交流、親睦などを深めている。



草刈り作業にてんてこ舞い

シルバー人材センターの草刈り作業班は、例年同様、昨年も市内一円で草刈り作業に追われた。日南地方は温暖で雨量が多い地域性か、雑草の繁殖率も高く、市内いたるところで雑草が伸び放題に。受注件数を見ても草刈り作業の依頼が断トツ。4月から10月頃までの繁忙期は、どのグループも草刈り作業に追われ、てんてこ舞いの忙しさだった。中には夏の炎天下を避け、朝の涼しいうちに作業に着手するグループもいた。

高齢ドライバーの交通事故などが全国的に多発傾向。AT車によるアクセルとブレーキペダルの踏み間違いによる誤発進や暴走等、危険運転が後を絶たないため、少しでも高齢ドライバーの安全意識を高めようと昨年6月、日南署員による交通安全講話がシルバー人材センターで開かれた。

高齢ドライバーのAT車によるペダルの踏み間違いや誤発進、暴走など危険運転をなくせ!!



日南署員の交通安全講話を聴くシルバー会員

体験型装置で危険予知能力を高める会員



■行事は、シルバー人材センターの安全就業推進大会の一環

車社会の中で、高齢ドライバーの交通事故が深刻な問題。当センターでも大半の会員が車を運転しているため、この日は70人のシルバー会員が出席、安全講話を聴く一方、交通安全教育車に試乗して身体機能をチェックしたり、自身の安全運転意識を高め合っていた。指導したのは日南警察署交通課の榎木田係長。最近の悲惨な交通事故に触れたあと、高齢者の安全運転意識を危惧。AT車によるアクセルとブレーキペダルの踏み間違いによる誤発進や暴走など危険運転が目立つため、「運転中は、アクセルとブレーキを常に操作しているのと同じ動作を繰り返し続けると意識が緩慢になりやすく、身体的機能が低下を招く恐れもある」と指摘、注意を呼びかけた。

免許更新時に認知機能検査が実施されているものの、加齢とともに身体機能の低下は否めず、運転中の正否判断は難しい面も。しかも地方では、車は生活に欠かせない足

ともなっている。常に安全意識を堅持し、高齢ドライバーとしての自覚と責任をもって運転して欲しいとアドバイス。また、この日は広場に準備された県警の交通安全教育車セーフティフェニックス号にも試乗、会員らは危険運転回避の動作や信号機のない横断歩道を渡る際のタイミングや要領などもチェックし、交通安全意識を高めていた。

詐欺防止の講話も

一方、同署生活安全課の甲斐係長による振り込み詐欺防止の講話もあり、会員達は警察官を装った新たな事例などに興味深く聴き入っていた。

認知症セミナー講話

グローバルジャパンによる認知症セミナー講話もあり、河野典康社長らが認知症の状況や予防などについて解説した。クイズ形式で老化と認知症の違いを問う場面もあり、熱のこもった講話が続いた。



認知症セミナー講話

安全標語入賞作品

- 最優秀賞** 安全は常に 目配り! 気配り! 心配り!
後藤 文良さん(城下班)
- 優秀賞** 仕事始め 必ず着用 ヘルメット!
矢野 安男さん(桔梗班)



表彰される後藤さん

最優秀賞に後藤さん

この日は、安全標語入賞作品の表彰式もあり、最優秀賞に後藤文良さん(城下班)の作品が選ばれた。